

## 第19回 安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館

# 研究活動発表会

3つの施設の職員が、日々の仕事の中から見つけた気付きやそれを発展させて行った研究結果等を、市民の皆様に分かりやすく紹介します。

日時：令和6年2月3日（土）14：00～16：00

（開場13:30、入場無料）

会場：5-Days こども文化科学館アポロホール（広島市中区基町5番83号）

### 講演演題

- ・特別企画展「牧野富太郎と広島」について 広島市植物公園 管理課 技師 久保 晴盛
- ・日本国内に2頭しかいないマルミゾウの繁殖を目指して！  
広島市安佐動物公園 飼育・展示課 主任技師 佐々木 直行
- ・企画展「コガネムシの世界」 ～動物園と昆虫館の奇跡のコラボ～  
広島市森林公園こんちゅう館 技師 高野 真太郎

## 特別企画展「牧野富太郎と広島」について

広島市植物公園 管理課 技師 久保 晴盛

今年度、当園では日本の植物分類学の父「牧野富太郎」博士をテーマにした企画展を開催しました。連続テレビ小説「らんまん」のモデルとして牧野博士が取り上げられたことで、全国的に植物に注目が集まる1年となり、園内外で実施した様々な関連イベントを通じて、多くの方に植物の魅力に触れていただき、標本作成並びに植物分類の意義や自然保護などについて様々な観点から考えていただく機会を提供できました。

牧野富太郎博士（1862-1957）は、植物分類学の研究に生涯を捧げ、1,500種類以上の学名を付けたほか、日本中の植物を網羅した図鑑「牧野日本植物図鑑」をまとめました。企画展では、牧野博士の人物像と功績を中心にパネルで解説し、博士の広島での足跡についても、県内で採集した標本や観察会の写真などを交えて特集しました。

関連イベントとして、2度の講演会のほか、園内の牧野博士ゆかりの植物を探す「おさんぽマップ」配布やギャラリートークなどを企画しました。また、八幡湿原（シャツにカキツバタの花を擦り付けたエピソードで有名）と厳島で牧野博士の足跡をたどる観察会を開催し、それぞれ盛況を博しました。

今回の発表では、牧野博士が残した学術成果について、展示会や関連イベントで紹介した内容とあわせて一緒に振り返っていきたいと思います。博士を惹きつけた植物の魅力や今日を生きる我々と植物園の果たすべき役割についてもお話しします。



出典：近代日本人の肖像



# 日本国内に2頭しかいないマルミミゾウの繁殖を目指して！

広島市安佐動物公園 飼育・展示課 主任技師 佐々木 直行

現時点で、海外から日本に導入されたアフリカ産のゾウは、2001年5月に西アフリカのブルキナファソから導入された3頭が最後です。3頭のうち1頭は、安佐動物公園にやってきた雌の「メイ」。そして残り2頭は、秋吉台サファリランドへ行きました。2008年、この3頭は遺伝子検査で一般的に飼育されているサバンナゾウとは別種のマルミミゾウであると判明しました。世界的にマルミミゾウを飼育している動物園は極めて少なく、飼育下繁殖を目的に、国内2園で協力することになりました。大型動物であるゾウの移動は困難なため、綿密な計画をたて、2022年6月2日に無事に雄の「ダイ」が広島にやってきました。新しいペアでの繁殖を目指すには、お見合いで相性を見極めた後、同居させる手順が必要です。ダイの来園から50日後、柵越しのお見合いを始めました。2頭の様子と、さらにメイの血液中の性ホルモン値から1年に3~4回しかなく、数日しか続かない発情のタイミングを見計らい11月1日に初めての同居を試みました。その後も同居を重ね、ダイが来園してちょうど1年が経過した2023年6月1日の同居の際、不完全ながら初めての交尾を確認し、12月8日ようやく完全な交尾に至りました。国内初繁殖に向けて大きな一歩を踏み出したと言えます。今回の発表ではマルミミゾウの飼育下繁殖の取り組みを紹介します。



## 企画展「コガネムシの世界」 ～動物園と昆虫館の奇跡のコラボ～

広島市森林公園こんちゅう館 技師 高野 真太郎

今年度、当館ではコガネムシにスポットをあてた企画展を開催しました。国内の身近な種だけでなく、宝石のように輝くプラチナコガネや最も重い昆虫の一種ゴライアスオオツノハナムグリといった海外の人気種まで、世界中のコガネムシの生体と標本を展示し、系統分類や生態についてパネルで解説しました。

企画展の目玉としては動物の糞を食べるコガネムシの仲間「糞虫」について安佐動物公園とのコラボ展示を行ないました。安佐動物公園を含めた全国の動物園にはたくさんの糞虫が生息していることが知られています。しかし、どんな種類の糞虫がいるのか詳しく調査した記録はほとんどありません。そこで、企画展の開催に合わせて、安佐動物公園の職員に向けたアンケート調査で糞虫の目撃情報を集めた後、園内で飼育動物の糞を使ったトラップを仕掛けて捕獲調査を行ない、企画展会場の特設コーナー「動物園でふん虫とってみた！」で結果を発表しました。企画展終了後も飼育職員の協力の元、糞虫の捕獲調査は継続しています。今回は企画展「コガネムシの世界」の展示内容と企画展前後に行った糞虫の調査結果についてご紹介します。



主催：公益財団法人 広島市みどり生きもの協会 問合せ：広島市植物公園 Tel.082-922-3600

※公共交通機関を利用してお越しください。